

# 「サザエさん」の女性登場人物が用いる ジェンダー表現の考察

増田 恭子・相場 大毅

## 1. はじめに

日本語には文末詞や人称代名詞などジェンダー表現が多い。私たちは、会話の相手・状況・目的に応じて表現を選んでいるが、近年若者の言葉遣いが「中性化」していると言われていた。二項対立方式を取り入れて実際の会話とドラマのセリフを比較分析した水本他(2006:126-127)は、20代前半の女性が女性文末詞を使用するのは非常に稀だが、ドラマでは、ステレオタイプの女性(キャリア系・専業主婦)がわ系の女性文末詞をよく使用していると指摘している。また、60～90年代のマンガを分析した因(2003:23)は、ジェンダー表現は人物造形に大きく影響していると述べている。

筆者らは、漫画のジェンダー表現の変化に興味があり、ロングセラーの漫画「サザエさん」のジェンダー表現の変遷を調査している。今回の発表の目的は、1946～1952年(昭和21～27年)と1973～1974年(昭和48～49年)の「サザエさん」の女性登場人物のサザエ・ワカメ・フネのセリフの文末詞と呼称詞の使用を分析し、年齢や場面によるジェンダー表現の実態を明らかにすることにある。

## 2. 研究課題と研究方法

本研究の研究課題は以下のとおりである。

RQ1 「サザエさん」の女性登場人物の文末詞と人称代名詞の使用を分析し、年齢や場面による違いを探る。

RQ2 時代背景の異なる「サザエさん」を調べることを通して、言葉遣いの「中性化」の変遷を明らかにする。

分析対象は、1946～1952年（昭和24～27年）と1973～1974年（昭和48～49年）に女性漫画家長谷川町子によって書かれた「サザエさん」である。因（2003：19）の提唱するジェンダー表現の5分類（F：女性語、FN：女性的中立語、N：中立語、MN：男性的中立語、M：男性語）を援用し、1940年代は単行本「サザエさん1巻」と「おたからサザエさん1」の2冊を、1970年代は「サザエさん43巻～45巻」の3冊を分析対象にした。

### 3. 結果と考察

結果は以下の通りである。1940年代のサザエのセリフには「わ」「の」など女性語が多く、F（18％）とFN（28％）を合わせると46％が女性語だった。丁寧体が多いフネは「かしら」「わ」などを使っていたが、F（8％）とFN（13％）を合わせて21％だった。普通体が多いワカメも女性語使用が少なく、FとFNを合わせても23％、中立語の使用（67％）が多かった。ワカメが女性語を多用しない点は、現代の日常会話のコーパスで、10代以下の若者がほぼ女性語を使用していない点（増田・山本2022：105）とも一致している。一方、20代のサザエが40代のフネより女性語使用が多いのは、ジェンダー表現がサザエのキャラクター作りに貢献している点、つまり役割語（金水2003：205）のため、あるいは女性語使用は現実の反映ではなく「イメージの産物」（中村2023：91）であると言えるだろう。

1970年代の「サザエさん」ではどのような変化が見られるだろうか。20代のサザエと10代のワカメは女性語使用が減少していた。サザエはFとFNを合わせて35％に、ワカメはFがなくなりFNが18％であった。一方40代のフネはFとFNを合わせた数が38％になり、女性語の文末詞が増加した。これは、漫画の世界でも若者の言葉遣いの「中性化」がみられ、漫画は単なるフィクションの世界ではなく、作者長谷川町子の女性語への意識の変化の現れとして解釈できるかもしれない。また、フネの女性語が多い理由としては、フネの年齢や磯野家の家事全般を支えている専業主婦という社会的役割と関連

しているからだと考えられるだろう。

次に、自称詞・呼称詞について報告する。まず、昭和20代のワカメの自称詞は「あたい・あたし」で、「サザエ」の自称詞は「あたし・わたし・わたくし・うち」など様々であったが、フネの自称詞は確認できなかった。サザエが使用する呼称詞は、マスオに対し「あなた」を、カツオに対し「あんた」を、また家族の名前を使っていた。タラちゃんが生まれる前の1940年代ではフネや波平に対し「ママ・パパ」も使っていた。

ワカメの呼称詞は「おかあちゃん・お母さん・母ちゃん・お父さん・ねーちゃん」、フネが「サザエ・カツオ」と「お前・あなた」だった。1970代のワカメの自称詞からは「あたい」が消え、フネの自称詞として「あたし」が確認できた。また、浪平に対しフネが「ダーリン」と呼ぶ場面もあった。家族間で、年齢が上の者は下の者（フネ→サザエ）を名前で呼ぶのは、日本社会では習慣的だが、興味深いのは感情的になった場面で、フネがサザエを「おまえ・あなた」と、サザエが店の人やカツオやワカメに対し「あんた（たち）」と呼び、ぞんざいな表現を使用している点である。以下、その例である。

#### 例1：近所の人との雑談シーン

サザエ：一そく七十円のタビみつけましたワ！

近所の人：あたし、ほかで六十五円でかいましたワ

サザエ：あんた、ほかは六十五円だってよ

店の人：しかたねえや、まけちゃえ

サザエ：おとなりでは六十円であったそうよ

別の店の人：そーすか？じゃ、まけましょ

あいつ、またくるぜ！ （「おたからサザエさん」1、p30）

ジェンダー表現への理解には、作品という全体構造の中、あるいは文脈の中でその表現がどのような意味合いを持つのかなどの機能を詳細に観察することが大事になってくる（因2010：87）。日本語教育では、ジェンダーに配慮した文末詞や呼称詞や家族間での呼び方などの説明が十分とはいえない。「サザエさん」は昭和の漫画であるため、現代の日本語教育には活用しにく

「サザエさん」の女性登場人物が用いるジェンダー表現の考察 (増田 恭子・相場 大毅)

い。しかし、4コマ漫画で短く、キャラクターの心情に応じた表現の豊かさや、家族間の関係性・呼称を学ぶ上では、有効なりソースかもしれない。

今後は、サザエさんに登場する男性登場人物のセリフを調べ、作品が生まれた時代背景に基づくジェンダー表現の違いについて考察したい。

## [引用文献]

- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波出版.
- 因京子 (2003) 「マンガに見るジェンダー表現の機能」『日本語とジェンダー』3. 17-36, 日本語ジェンダー学会.
- 因京子 (2010) 「マンガジェンダー表現の多様な意味」中村桃子 (編) 『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社.
- 中村一夫 (2023) 「長谷川町子の表現 — 可視化される属性」『国士舘大学国文学会44. 81-99, 国士舘大学.
- 増田恭子・山本裕子 (2022) 「ジェンダー表現を考える — マンガと日常会話に現れた文末表現の比較分析を通して —」プリンストン大学日本語教育フォーラム論集28. 100-121, プリンストン大学.
- 水本光美・福盛寿子・福田あゆみ・高田恭子 (2006) 「ドラマに見る女ことば「女性文末詞」— 実際の会話と比較して」『北九州市立大学国際論集』7-6. 117-129, 北九州市立大学.

(ますだ きょうこ・ジョージア工科大学教授)

(あいば たいき・ジョージア工科大学学部生)